

介護職員初任者研修 公開情報

研修機関情報	法人情報	職業訓練法人 宮古職業訓練協会 〒027-0053 岩手県宮古市長町2丁目6番1号 会 長 鈴木 勇平			
	研修機関情報	・ 名称 職業訓練法人 宮古職業訓練協会（宮古職業訓練センター） 〒027-0053 岩手県宮古市長町2丁目6番1号			
		・ 理念 宮古圏域の職業能力開発の拠点として、有為な技能者の養成を目的とする。			
		・ 学則 別紙「学則」参照			
研修事業情報	研修の概要	・ 対象 離職者・在職者の宮古市民 （但し定員を満たさない場合は宮古市民以外の方も受講可能） 心身共に健康で、介護職への就職を希望している方 全日程の受講ができる方（介護職員初任者研修の修了要件）			
		・ 日程 別紙「日程表」参照			
		・ 定 員 20名			
		・ 講師数 23名			
		・ 受講までの流れ 受講申込場所 宮古職業訓練協会 ↓ 選考（会場 宮古職業訓練センター 筆記試験、面接） ↓ 可否通知 ↓ 令和8年8月19日（水）開講			
		・ 自己負担 テキスト代6,600円 保険料1,130円（求職者のみ） 自己負担			
		・ 詳細 別紙「募集チラシ」参照			
		・ その他 この研修は全日程の出席及び、修了評価試験に合格することが介護職員初任者研修課程取得の条件となります。			
	課程責任者	・ 課程編成責任者名 事務局長 石原 和幸			
	研修カリキュラム	・ シラバス 別紙「シラバス」参照			
・ 担当講師 別紙「講師一覧」参照					
・ 使用教材 株式会社日本医療企画「介護職員初任者研修課程テキスト」					
・ 修了評価 この研修は全日程の出席及び、修了評価試験に合格した者を修了と認める。 別紙「修了評価の方法」					
実績情報		・ 令和元年度 1回実施 実施人数20名 ・ 令和2年度 1回実施 実施人数11名 ・ 令和3年度 1回実施 実施人数16名 ・ 令和4年度 1回実施 実施人数15名 ・ 令和5年度 1回実施 実施人数13名 ・ 令和6年度 1回実施 実施人数13名 ・ 令和7年度 1回実施 実施人数10名			
連絡先等		・ 申込・資料請求先 宮古職業訓練協会 ・ 法人及び事業所の苦情対応者名 事務局長 石原 和幸 連絡先：0193-63-6688			

介護科（離職者）学 則

目 的

介護初任者研修課程による職業訓練をととして、同資格取得をすることにより再就職を目指すことを目的とする。

研修名称及び課程

介護職員初任者研修課程（訓練科名：介護科）

実施期間

年度内において、3ヶ月間で実施する。

受講定員

下記資格を満たすもので、概ね10名とする。

講習会場

宮古職業訓練センター（宮古職業訓練協会）

〒027-0053 宮古市長町 2-6-1 TEL (0193) 63-6688 FAX (0193) 62-6207

受講資格

受講開始日において、次のいずれかに該当する方

- ・宮古市民（但し、募集定員に満たない場合のみ宮古市民以外の方も受講可能）
- ・心身共に健康で、資格を活かし就労を希望する方
- ・全日程の受講が出来る方（介護職員初任者研修の修了要件）

受講者の決定

上記受講資格を満たすものの中から書類選考及び面接選考により宮古職業訓練協会で協議の上、決定する。

受 講 料

受講料は無料とし、一部教材費（テキスト代 6,600 円、保険料 1,130 円）の実費負担あり

受付等

受付期間は研修開始日より遡りおよそ2ヶ月半～1ヶ月前までを受付期間とする。

受講手続

受講申込みの受付は、宮古職業訓練センターで行うこととする。

受講者の確認

訪問介護員の仕事は、要介護者の居宅に入り、本人に直接接して介護を行うものであり、利用者との信頼関係の構築が重要であることから、受講申込時に受講者の本人確認をいずれかの方法で行うものとする。

- ・住民票の提出
- ・健康保険証の提示
- ・運転免許証の提示
- ・国家資格等を有する者については、免許証または登録証の提示 等

受講者の個人情報の取扱い

受講生の個人情報の取扱いは職業訓練法人宮古職業訓練協会にて行い、受講生の同意なしに訓練関係機関以外の第三者に個人情報を提供しない。

＜訓練関係機関＞

- ・ハローワーク
- ・学科、実技担当講師
- ・介護演習施設

カリキュラム及び使用する教材

- カリキュラム 別に掲げるカリキュラムとする。
- 使用する教材 株式会社日本医療企画 発行
介護職員初任者研修課程テキスト

研修修了の認定方法

- 研修修了の認定方法 研修科目を受講した者には、岩手県介護員養成研修事業取扱要綱により介護員初任者研修課程修了証明書及び修了証明書（携帯用）を交付する。
なお、研修科目のうち受講できなかった科目についての補講は実施するが有償（1時間 5,000 円）とする。

- 修了評価の方法 修了評価の内容は、（様式7）修了評価の方法のとおりとする。

施行細則

1. 研修日程表による研修時間数以外に、当協会独自の講義・演習・実習を実施することができる。
2. この学則に必要な細則及びこの学則に定められていない事項で、必要があると認められる場合は、当協会が定めることができる。

介護科（在職者） 学 則

目 的

介護初任者研修課程による職業訓練をととして、同資格取得をすることによりサービスの向上を目指すことを目的とする。

研修名称及び課程

介護職員初任者研修課程（訓練科名：介護科）

実施期間

年度内において、3ヶ月間で実施する。

受講定員

下記資格を満たすもので、概ね10名とする。

講習会場

宮古職業訓練センター（宮古職業訓練協会）

〒027-0053 宮古市長町 2-6-1 TEL (0193) 63-6688 FAX (0193) 62-6207

受講資格

受講開始日において、次のいずれかに該当する方

- ・心身共に健康で、資格を活かし就労を希望、又は就労している方
- ・全日程の受講が出来る方（介護職員初任者研修の修了要件）

受講者の決定

上記受講資格を満たすものの中から書類選考及び面接選考により宮古職業訓練協会で協議の上、決定する。

受 講 料

受講料は無料とし、一部教材費（テキスト代 6,600 円）の実費負担あり

受付等

受付期間は研修開始日より遡りおよそ2ヶ月半～1ヶ月前までを受付期間とする。

受講手続

受講申込みの受付は、宮古職業訓練センターで行うこととする。

受講者の確認

訪問介護員の仕事は、要介護者の居宅に入り、本人に直接接して介護を行うものであり、利用者との信頼関係の構築が重要であることから、受講申込時に受講者の本人確認をいずれかの方法で行うものとする。

- ・住民票の提出
- ・健康保険証の提示
- ・運転免許証の提示
- ・国家資格等を有する者については、免許証または登録証の提示 等

受講者の個人情報の取扱い

受講生の個人情報の取扱いは職業訓練法人宮古職業訓練協会にて行い、受講生の同意なしに訓練関係機関以外の第三者に個人情報を提供しない。

＜訓練関係機関＞

- ・学科、実技担当講師
- ・介護演習施設

カリキュラム及び使用する教材

- カリキュラム 別に掲げるカリキュラムとする。
- 使用する教材 株式会社日本医療企画 発行
介護職員初任者研修課程テキスト

研修修了の認定方法

- 研修修了の認定方法 研修科目を受講した者には、岩手県介護員養成研修事業取扱要綱により介護員初任者研修課程修了証明書及び修了証明書（携帯用）を交付する。
なお、研修科目のうち受講できなかった科目についての補講は実施するが有償（1時間 5,000 円とする）
- 修了評価の方法 修了評価の内容は、（様式7）修了評価の方法のとおりとする。

施行細則

1. 研修日程表による研修時間数以外に、当協会独自の講義・演習・実習を実施することができる。
2. この学則に必要な細則及びこの学則に定められていない事項で、必要があると認められる場合は、当協会が定めることができる。

介護職員初任者研修 日程表 〔求職者〕

主 催： 職業訓練法人 宮古職業訓練協会
場 所： 宮 古 職 業 訓 練 セ ン タ ー

※休憩時間は各講師の判断に任せるため訓練時間に含まれるものとする：1時間以上講義・演習(5分)、2時間以上講義・演習(10分又は20分)

月 日	時間帯	訓練時間	テキスト	科目名	科目時間	講義演習	担当講師/所属
8月19日 (水曜日)	9:00 ～ 12:00			開講日 オリエンテーション			
8月20日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	1巻	1. 職務の理解・(1)多様なサービスの理解	3	講義	3001 加藤 伸二 / 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
	13:00 ～ 16:10	3	1巻	1. 職務の理解・(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	講義	3001 加藤 伸二 / 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
8月21日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	1巻	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携・(1)介護保険制度	3	講義	4001 山崎 寿子 / 宮古市保健福祉部介護保険課
	13:00 ～ 16:10	3	1巻	2. 介護における尊厳の保持・自立支援・(2)自立に向けた介護	4	講義	4002 佐々木 真代 / 宮古市保健福祉部介護保険課
8月27日 (木曜日)	9:00 ～ 11:10	2	1巻	2. 介護における尊厳の保持・自立支援・(1)人権と尊厳を支える介護	5	講・演	4003 小笠原 藍 / 宮古市保健福祉部介護保険課
	11:10 ～ 12:10	1	1巻	2. 介護における尊厳の保持・自立支援・(2)自立に向けた介護	4	講義	4002 佐々木 真代 / 宮古市保健福祉部介護保険課
	13:00 ～ 14:00	1	1巻	3. 介護の基本・(1)介護職の役割、専門性と他職種との連携	1	講義	5003 鈴木 達也 / ㈱J A ライフサポート
	14:05 ～ 16:15	2	1巻	3. 介護の基本・(2)介護職の職業倫理	2	講義	5003 鈴木 達也 / ㈱J A ライフサポート
8月28日 (金曜日)	9:00 ～ 11:10	2	1巻	3. 介護の基本・(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	講義	5003 鈴木 達也 / ㈱J A ライフサポート
	11:10 ～ 12:10	1	1巻	3. 介護の基本・(4)介護職の安全	1	講・演	5003 鈴木 達也 / ㈱J A ライフサポート
9月3日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	2巻	5. 介護におけるコミュニケーション技術・(1)介護におけるコミュニケーション	3	講・演	3002 久坂 義臣 / 社会福祉法人 若竹会
	13:00 ～ 16:10	3	1巻	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携・(2)医療との連携とリハビリテーション	3	講義	1101 館下 真紀子 / 社団医療法人 新和会
9月4日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	1巻	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携・(3)障害者自立支援制度およびその他制度	3	講義	3003 畠山 兼 / 社会福祉法人 若竹会
	13:00 ～ 16:10	3	2巻	5. 介護におけるコミュニケーション技術・(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3	講義	3002 久坂 義臣 / 社会福祉法人 若竹会
9月10日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	2巻	6. 老化の理解・(1)老化に伴うこととからだの変化と日常	3	講・演	1009 芳賀 奈緒子 / 社団医療法人 新和会
	16:00 ～ 17:00	1		1巻確認テスト			
9月11日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	2巻	6. 老化の理解・(2)高齢者と健康	3	講・演	1009 芳賀 奈緒子 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 14:00	1	2巻	7. 認知症の理解・(1)認知症を取り巻く状況	1	講義	1002 菊池 勝 / 社団医療法人 新和会
9月17日 (木曜日)	14:05 ～ 16:15	2	2巻	7. 認知症の理解・(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	講義	1002 菊池 勝 / 社団医療法人 新和会
	9:00 ～ 11:10	2	2巻	7. 認知症の理解・(3)認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2	講・演	1002 菊池 勝 / 社団医療法人 新和会
9月18日 (金曜日)	11:10 ～ 12:15	1	2巻	7. 認知症の理解・(4)家族への支援	1	講義	1002 菊池 勝 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(1)介護の基本的な考え方	4	講・演	2002 有原 領一 / 宮古市社会福祉協議会
9月24日 (木曜日)	9:00 ～ 10:00	1	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(1)介護の基本的な考え方	4	講・演	2002 有原 領一 / 宮古市社会福祉協議会
	10:05 ～ 12:15	2	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	講義	2002 有原 領一 / 宮古市社会福祉協議会
	13:00 ～ 14:00	1	2巻	7. 認知症の理解・(5)行動障害	3	講義	3002 久坂 義臣 / 社会福祉法人 若竹会
9月25日 (金曜日)	14:05 ～ 16:15	2	2巻	8. 障害の理解・(3)家族の心理、かかわり支援の理解	2	講義	1008 川上 美香 / 社団医療法人 新和会
	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(4)生活と家事	6	講・演	5004 千坂 貴子 / 介護老人保健施設ほほえみの里
9月25日 (金曜日)							
	13:00 ～ 15:10	2	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	講義	2002 有原 領一 / 宮古市社会福祉協議会
	15:10 ～ 16:10	1		2巻確認テスト			

介護職員初任者研修 日程表 〔求職者〕

主 催： 職業訓練法人 宮古職業訓練協会
場 所： 宮 古 職 業 訓 練 セ ン タ ー

※休憩時間は各講師の判断に任せるため訓練時間に含めるものとする：1時間以上講義・演習(5分)、2時間以上講義・演習(10分又は20分)

月 日	時間帯	訓練時間	テキスト	科目名	科目時間	講義演習	担当講師/所属
10月1日 (木曜日)	9:00 ～ 12:00	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(4)生活と家事	6	講・演	5004 千坂 貴子 / 介護老人保健施設ほほえみの里
	13:00 ～ 15:10	2	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	講義	1102 佐々木 修 / 社団医療法人 新和会
10月2日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	講義	1102 佐々木 修 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(14)総合生活支援技術演習	6	演習	5004 千坂 貴子 / 介護老人保健施設ほほえみの里
10月8日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(5)快適な居住環境整備と介護	5	講・演	5001 星 政宏 / ㈱TAKUMI コーポレーション
	13:00 ～ 15:10	2	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(5)快適な居住環境整備と介護	5	講・演	5001 星 政宏 / ㈱TAKUMI コーポレーション
10月9日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(12)死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護	5	講・演	1005 宇都宮 崇 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 17:10	4	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(11)睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	講・演	5002 ガルシア 小織 / ㈱メディケア・システム
10月15日 (木曜日)	9:00 ～ 11:10	2	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(12)死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護	5	講・演	1005 宇都宮 崇 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(13)介護過程の基礎的理解	6	講・演	5003 鈴木 達也 / ㈱J A ライフサポート
10月16日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(13)介護過程の基礎的理解	6	講・演	5003 鈴木 達也 / ㈱J A ライフサポート
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(14)総合生活支援技術演習	6	演習	5004 千坂 貴子 / 介護老人保健施設ほほえみの里
	16:10 ～ 17:10	1		演習オリエンテーション			
10月22日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(6)整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1010 長沢 沙也香 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(6)整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1010 長沢 沙也香 / 社団医療法人 新和会
10月23日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(7)移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1103 田中 翔樹 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(7)移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1103 田中 翔樹 / 社団医療法人 新和会
10月29日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(8)食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1006 長門 千春 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(8)食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1003 木村 省子 / 社団医療法人 新和会
10月30日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(9)入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1004 菊池 ひとみ / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(9)入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1004 菊池 ひとみ / 社団医療法人 新和会
11月5日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(10)排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1007 宮澤 仁美 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. ころとからだのしくみと生活支援技術・(10)排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1007 宮澤 仁美 / 社団医療法人 新和会
11月6日 (金曜日)	9:00 ～ 11:10	2	3巻	10. 振り返り・(1)振り返り	2	講・演	3001 加藤 伸二 / 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
	11:10 ～ 12:15	1	3巻	10. 振り返り・(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	講・演	3001 加藤 伸二 / 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
	13:00 ～ 14:00	1	3巻	10. 振り返り・(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	講・演	3001 加藤 伸二 / 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
	14:00 ～ 15:00	1		3巻確認テスト			
	15:00 ～ 16:00	1		修了評価テスト			

介護職員初任者研修 日程表 〔在職者〕

主 催： 職業訓練法人 宮古職業訓練協会
場 所： 宮 古 職 業 訓 練 セ ン タ ー

※休憩時間は各講師の判断に任せるため訓練時間に含めるものとする：1時間以上講義・演習(5分)、2時間以上講義・演習(10分又は20分)

月 日	時間帯	訓練 時間	テキ スト	科目名	科目 時間	講義 演習	担当講師/所属
8月20日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	1巻	1. 職務の理解・(1)多様なサービスの理解	3	講義	3001 加藤 伸二 / 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
	13:00 ～ 16:10	3	1巻	1. 職務の理解・(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	講義	3001 加藤 伸二 / 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
8月21日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	1巻	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携・(1)介護保険制度	3	講義	4001 山崎 寿子 / 宮古市保健福祉部介護保険課
	13:00 ～ 16:10	3	1巻	2. 介護における尊厳の保持・自立支援・(2)自立に向けた介護	4	講義	4002 佐々木 真代 / 宮古市保健福祉部介護保険課
8月27日 (木曜日)	9:00 ～ 11:10	2	1巻	2. 介護における尊厳の保持・自立支援・(1)人権と尊厳を支える介護	5	講・演	4003 小笠原 藍 / 宮古市保健福祉部介護保険課
	11:10 ～ 12:10	1	1巻	2. 介護における尊厳の保持・自立支援・(2)自立に向けた介護	4	講義	4002 佐々木 真代 / 宮古市保健福祉部介護保険課
	13:00 ～ 14:00	1	1巻	3. 介護の基本・(1)介護職の役割、専門性や他職種との連携	1	講義	5003 鈴木 達也 / ㈱ＪＡライフサポート
	14:05 ～ 16:15	2	1巻	3. 介護の基本・(2)介護職の職業倫理	2	講義	5003 鈴木 達也 / ㈱ＪＡライフサポート
8月28日 (金曜日)	9:00 ～ 11:10	2	1巻	3. 介護の基本・(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	講義	5003 鈴木 達也 / ㈱ＪＡライフサポート
	11:10 ～ 12:10	1	1巻	3. 介護の基本・(4)介護職の安全	1	講・演	5003 鈴木 達也 / ㈱ＪＡライフサポート
	13:00 ～ 16:10	3	1巻	2. 介護における尊厳の保持・自立支援・(1)人権と尊厳を支える介護	5	講・演	4003 小笠原 藍 / 宮古市保健福祉部介護保険課
9月3日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	2巻	5. 介護におけるコミュニケーション技術・(1)介護におけるコミュニケーション	3	講・演	3002 久坂 義臣 / 社会福祉法人 若竹会
	13:00 ～ 16:10	3	1巻	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携・(2)医療との連携とリハビリテーション	3	講義	1101 館下 真紀子 / 社団医療法人 新和会
9月4日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	1巻	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携・(3)障害者自立支援制度およびその他制度	3	講義	3003 畠山 兼 / 社会福祉法人 若竹会
	13:00 ～ 16:10	3	2巻	5. 介護におけるコミュニケーション技術・(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3	講義	3002 久坂 義臣 / 社会福祉法人 若竹会
9月10日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	2巻	6. 老化の理解・(1)老化に伴うことからの変化と日常	3	講・演	1009 芳賀 奈緒子 / 社団医療法人 新和会
	16:00 ～ 17:00	1		1巻確認テスト			
9月11日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	2巻	6. 老化の理解・(2)高齢者と健康	3	講・演	1009 芳賀 奈緒子 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 14:00	1	2巻	7. 認知症の理解・(1)認知症を取り巻く状況	1	講義	1002 菊池 勝 / 社団医療法人 新和会
	14:05 ～ 16:15	2	2巻	7. 認知症の理解・(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	講義	1002 菊池 勝 / 社団医療法人 新和会
9月17日 (木曜日)	9:00 ～ 11:10	2	2巻	7. 認知症の理解・(3)認知症に伴うことからの変化と日常生活	2	講・演	1002 菊池 勝 / 社団医療法人 新和会
	11:10 ～ 12:15	1	2巻	7. 認知症の理解・(4)家族への支援	1	講義	1002 菊池 勝 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(1)介護の基本的な考え方	4	講・演	2002 有原 領一 / 宮古市社会福祉協議会
9月18日 (金曜日)	9:00 ～ 10:00	1	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(1)介護の基本的な考え方	4	講・演	2002 有原 領一 / 宮古市社会福祉協議会
	10:00 ～ 12:10	2	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	講義	2002 有原 領一 / 宮古市社会福祉協議会
	13:00 ～ 16:10	3	2巻	7. 認知症の理解・(5)行動障害	3	講義	3002 久坂 義臣 / 社会福祉法人 若竹会
9月24日 (木曜日)	9:00 ～ 10:00	1	2巻	8. 障害の理解・(1)障害の基礎的理解	1	講義	1005 宇都宮 崇 / 社団医療法人 新和会
	10:05 ～ 12:15	2	2巻	8. 障害の理解・(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識	3	講義	1005 宇都宮 崇 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 14:00	1	2巻	8. 障害の理解・(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識	3	講義	1005 宇都宮 崇 / 社団医療法人 新和会
	14:05 ～ 16:15	2	2巻	8. 障害の理解・(3)家族の心理、かわり支援の理解	2	講義	1008 川上 美香 / 社団医療法人 新和会
9月25日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(4)生活と家事	6	講・演	5004 千坂 貴子 / 介護老人保健施設ほほえみの里
	13:00 ～ 15:10	2	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	講義	2002 有原 領一 / 宮古市社会福祉協議会
	15:10 ～ 16:10	1		2巻確認テスト			

介護職員初任者研修 日程表 〔在職者〕

主 催： 職業訓練法人 宮古職業訓練協会
場 所： 宮 古 職 業 訓 練 セ ン タ ー

※休憩時間は各講師の判断に任せるため訓練時間に含まれるものとする：1時間以上講義・演習(5分)、2時間以上講義・演習(10分又は20分)

月 日	時間帯	訓練 時間	テキ スト	科目名	科目 時間	講義 演習	担当講師/所属
10月1日 (木曜日)	9:00 ～ 12:00	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(4)生活と家事	6	講・演	5004 千坂 貴子 / 介護老人保健施設ほほえみの里
	13:00 ～ 15:10	2	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	講義	1102 佐々木 修 / 社団医療法人 新和会
10月2日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	講義	1102 佐々木 修 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(14)総合生活支援技術演習	6	演習	5004 千坂 貴子 / 介護老人保健施設ほほえみの里
10月8日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(5)快適な居住環境整備と介護	5	講・演	5001 星 政宏 / ㈱TAKUMIコーポレーション
	13:00 ～ 15:10	2	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(5)快適な居住環境整備と介護	5	講・演	5001 星 政宏 / ㈱TAKUMIコーポレーション
10月9日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(12)死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	5	講・演	1005 宇都宮 崇 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 17:10	4	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	講・演	5002 ガルシア 小織 / ㈱メディケア・システム
10月15日 (木曜日)	9:00 ～ 11:10	2	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(12)死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	5	講・演	1005 宇都宮 崇 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(13)介護過程の基礎的理解	6	講・演	5003 鈴木 達也 / ㈱J Aライフサポート
10月16日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(13)介護過程の基礎的理解	6	講・演	5003 鈴木 達也 / ㈱J Aライフサポート
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(14)総合生活支援技術演習	6	演習	5004 千坂 貴子 / 介護老人保健施設ほほえみの里
	16:10 ～ 17:10	1		演習オリエンテーション			
10月22日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1010 長沢 沙也香 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1010 長沢 沙也香 / 社団医療法人 新和会
10月23日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1103 田中 翔樹 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1103 田中 翔樹 / 社団医療法人 新和会
10月29日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1006 長門 千春 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1003 木村 省子 / 社団医療法人 新和会
10月30日 (金曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1004 菊池 ひとみ / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1004 菊池 ひとみ / 社団医療法人 新和会
11月5日 (木曜日)	9:00 ～ 12:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1007 宮澤 仁美 / 社団医療法人 新和会
	13:00 ～ 16:10	3	3巻	9. こころとからだのしくみと生活支援技術・(10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	講・演	1007 宮澤 仁美 / 社団医療法人 新和会
11月6日 (金曜日)	9:00 ～ 11:10	2	3巻	10. 振り返り・(1)振り返り	2	講・演	3001 加藤 伸二 / 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
	11:10 ～ 12:15	1	3巻	10. 振り返り・(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	講・演	3001 加藤 伸二 / 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
	13:00 ～ 14:00	1	3巻	10. 振り返り・(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	講・演	3001 加藤 伸二 / 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
	14:00 ～ 15:00	1		3巻確認テスト			
	15:00 ～ 16:00	1		修了評価テスト			

求職者
10名

受講生募集

介護職員初任者研修

当施設では、2つの研修課程を同時に修了できる日程になっております。

○介護職員初任者研修

介護をするときの最低限の知識・技術、実践する際の考え方のプロセスを学びます。

○居宅介護職員初任者研修

障がい者の在宅生活を支援する「知識」「技術」を学びます。



訓練期間

8月19日(水)～11月6日(金)のうち27日間+職場体験

【訓練時間】 9:00～17:00 ※日程の詳細は裏面をご確認ください。

対 象

- 求職者(宮古市民優先・定員に満たない場合は市民以外も受講可)
- 心身共に健康で介護職への就職を希望している方
- 全日程受講ができる方(介護職員初任者研修の修了要件)

募集期間

7月30日(木)まで

受講費用

- 受講料 **無 料**
但し、テキスト代6,600円、保険料1,130円は自己負担となります。

選 考

8月3日(月)9:30集合

筆記・面接試験(筆記用具持参)

～資格取得支援補助金について～ 申請は訓練修了後

宮古市離職者資格取得支援補助金の対象者は、受講費用の1/3が補助されます。

【対象者】●宮古市に住所がある方 ●訓練を修了し資格取得した方 ●市税を完納している方

本研修は、雇用保険受給者の失業認定における「求職活動」に該当します。

■お申込み・お問合せ■

職業訓練法人 **宮古職業訓練協会**
〒027-0053 岩手県宮古市長町二丁目6番1号
☎(0193) 63-6688

【主催】職業訓練法人宮古職業訓練協会
【共催】宮古公共職業安定所



受講申込書（求職者）

下記、同意事項を確認のうえ、介護職員初任者研修課程に申込みます。

申込日 令和8年 月 日

同意事項	後日、協会から就職状況調査があった場合には誠意を持って対応します。 ここに記載された個人情報については、当協会が連絡、名簿作成に使用する他、講師が閲覧することに同意します。			
(ふりがな)		電話番号	平日の日中、連絡が取れる番号	
お名前・性別	男 性 女 性		— —	
住 所	〒 — 宮古市		生年月日	昭和・平成 年 月 日 (歳)
受講理由				

締切日：令和8年7月30日（木）

お申込みは、祝日を除く月曜日から金曜日、9時から17時までをお願いします。

職業訓練法人 宮古職業訓練協会 TEL:0193-63-6688
岩手県宮古市長町二丁目6番1号

日 程

2026	8 月				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
27	28	29	30	31	
03	04	05	06	07	
10	11	12	13	14	
17	18	19 開講日 オリエンテーション	20 講義1	21 講義2	
24	25	26	27 講義3	28 講義4	
31	01				

2026	9 月				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
31	01	02	03 講義5	04 講義6	
07	08 ビジネスマナー	09	10 講義7 ☆1巻テスト	11 講義8	
14	15 メンタルヘルス	16	17 講義9	18 講義10	
21	22	23	24 講義11	25 講義12 ☆2巻テスト	
28	29 再就職セミナー	30	01	02	

2026	10 月				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
28	29	30	01 講義13	02 講義14	
05	06	07	08 講義15	09 講義16	
12	13	14	15 講義17	16 講義18 オリエンテーション	
19	20	21	22 演習1	23 演習2	
26	27	28	29 演習3	30 演習4	

2026	11 月				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
26	27	28	29	30	
02	03	04	05 演習5	06 講義19 ☆3巻テスト ◎修了評価テスト	

※上記の他に職場体験・個別相談

※日程は、変更の可能性もあります。

在職者
10名

受講生募集

介護職員初任者研修

当施設では、2つの研修課程を同時に修了できる日程になっております。

○介護職員初任者研修

介護をするときの最低限の知識・技術、実践する際の考え方のプロセスを学びます。

○居宅介護職員初任者研修

障がい者の在宅生活を支援する「知識」「技術」を学びます。



訓練期間

8月20日(木)～11月6日(金)のうち24日間

【訓練時間】 9:00～17:00 ※日程の詳細は裏面をご確認ください。

対 象

- 在職者(宮古市民優先・定員に満たない場合は市民以外も受講可)
- 心身共に健康で介護職へ従事している方
- 全日程受講ができる方(介護職員初任者研修の修了要件)

受講費用

■受講料 無 料

但し、テキスト代6,600円は自己負担となります。
※個人申込みの場合: +保険料1,130円

ビジネスマナー・メンタルヘルス

- ご希望の方は、無料で受講いただけます。
どうぞお気軽にお申し付けください。

○ビジネスマナー 9/8(火)
社会人としての心構え、接遇 他

○メンタルヘルス 9/15(火)
ストレスについて、アサーション 他

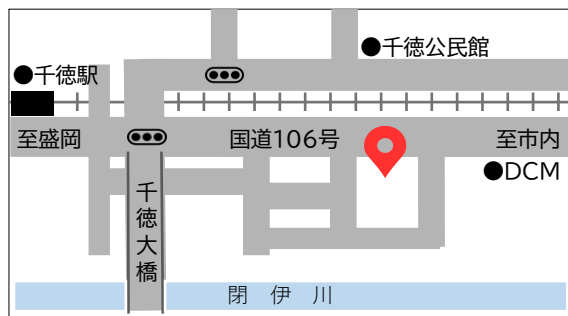
募集期間

7月30日(木)まで

■お申込み・お問合せ■

職業訓練法人 宮古職業訓練協会
〒027-0053 岩手県宮古市長町二丁目6番1号
☎(0193) 63-6688

【主催】職業訓練法人宮古職業訓練協会
【共催】宮古公共職業安定所



受講申込書（在職者）

下記の同意事項を確認のうえ、介護職員初任者研修課程に申込みます。

申込日 令和8年 月 日

同意事項		ここに記載された個人情報については、当協会が連絡、名簿作成に使用する他、講師が閲覧することに同意します。			
会社名		(ご担当者)			
住 所		〒 —			
電話番号					
1	(ふりがな) お名前・性別	男 性 女 性	電話番号	— —	
	住 所 (修了者名簿を県へ提出のため個人の住所をご記入ください)	〒 —	生年月日	昭和・平成 年 月 日 (歳)	
2	(ふりがな) お名前・性別	男 性 女 性	電話番号	— —	
	住 所 (修了者名簿を県へ提出のため個人の住所をご記入ください)	〒 —	生年月日	昭和・平成 年 月 日 (歳)	
締切日：令和8年7月30日(木) お申込みは、祝日を除く月曜日から金曜日、9時から17時までに、受講料を添えてお願いします。 職業訓練法人 宮古職業訓練協会 岩手県宮古市長町二丁目6番1号 TEL：0193-63-6688 FAX：0193-62-6207					

日 程

2026	8 月				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
27	28	29	30	31	
03	04	05	06	07	
10	11	12	13	14	
17	18	19	20 講義1	21 講義2	
24	25	26	27 講義3	28 講義4	

2026	9 月				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
31	01	02	03 講義5	04 講義6	
07	08	09	10 講義7 ☆1巻テスト	11 講義8	
14	15	16	17 講義9	18 講義10	
21	22	23	24 講義11	25 講義12 ☆2巻テスト	

2026	10 月				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
28	29	30	01 講義13	02 講義14	
05	06	07	08 講義15	09 講義16	
12	13	14	15 講義17	16 講義18 オリエンテーション	
19	20	21	22 演習1	23 演習2	
26	27	28	29 演習3	30 演習4	

2026	11 月				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
26	27	28	29	30	
02	03	04	05 演習5	06 講義19 ☆3巻テスト ●修了評価テスト	

※日程は、変更の可能性もあります。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	1. 職務の理解（6時間）		
到達目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 多様なサービスの理解		3.0	【講義】 ○介護保険サービス（居宅、施設）○介護保険外サービス
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		3.0	【講義】 ○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ○ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
合計時間数		6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）		
到達目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 人権と尊厳を支える介護		5.0	【講義】 (1) 人権と尊厳の保持 ○個人としての尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護 (2) ICF ○介護分野におけるICF (3) QOL ○QOLの考え方、○生活の質 (4) ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方 (5) 虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援 (6) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業 【演習】 尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れた介護の目標や展開について、グループディスカッションを行い理解を深める。
(2) 自立に向けた介護		4.0	【講義】 (1) 自立支援 ○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性/個別ケア、○重度化防止 (2) 介護予防の考え方
合計時間数		9.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）				3. 介護の基本（6時間）
到達目標				介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる視点を持つ。
項目名	時間数		学習内容	
	通信	通学		
(1) 介護職の役割、専門性と他職種との連携		1.0	【講義】 (1) 介護環境の特徴の理解 ○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○他職種から成るチーム	
(2) 介護職の職業倫理		2.0	【講義】 職業倫理 ○専門職の倫理の意義、○介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）○介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		2.0	【講義】 (1) 介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード (2) 事故防止、安全対策 ○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、○情報の共有 (3) 感染対策 ○感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、○「感染」に対する正しい知識	
(4) 介護職の安全		1.0	【講義・演習】 介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○腰痛の予防に関する知識、○手洗い・うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策	
合計時間数		6.0		

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
到達目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 介護保険制度		3.0	【講義】 (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換、○地域包括センターの設置、○地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み、○介護給付と種類、○予防給付、○要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○財政負担、○指定介護サービス事業所の指定
(2) 医療との連携とリハビリテーション		3.0	【講義】 ○医行為と介護、○訪問介護、○施設における漢語と介護の役割・連携、○リハビリテーションの理念
(3) 障害者自立支援制度およびその他制度		3.0	【講義】 (1) 障害者福祉制度の理念 ○障害の概念、○ICF（国際生活機能分類） (2) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業
合計時間数		9.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	5. 介護のコミュニケーション技術 (6時間)		
到達目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき (取るべきでない) 行動例を理解している。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 介護におけるコミュニケーション		3.0	【講義】 (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、○傾聴、○共感の応答 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○言語的コミュニケーションの特徴、○非言語コミュニケーションの特徴 (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の思いを把握する、○意欲低下の要因を考える、○利用者の感情に共感する、○家族の心理的理解、○家族へのいたわりと励まし、○信頼関係の形成、○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、○失語症に応じたコミュニケーション技術、○擬音障害に応じたコミュニケーション技術、○認知症に応じたコミュニケーション技術 【演習】 講義の内容をふまえ傾聴・共感の応答、言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションをグループで演習する
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		3.0	【講義】 (1) 記録における情報の共有化 ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、○介護に関する記録の種類、個別援助計画書 (訪問・通所・入所、福祉用具貸与等)、○ヒヤリハット報告書、○5W1H (2) 報告 ○報告の留意点、○連絡の留意点、○相談の留意点 (3) コミュニケーションを促す環境 ○会議、○情報共有の場、○役割の認識の場 (利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)、ケアカンファレンスの重要性 【演習】 個別援助計画書、ヒヤリハット報告書を実際に作成する
合計時間数		6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分 (0.5時間) を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容 (演習手法等) を、実習については実施方法 (学習目的等) を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	6. 老化の理解 (6時間)		
到達目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 老化に伴う ところとからだ の変化と日常		3.0	【講義】 (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○防衛反応（反射）の変化、○喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼機能の低下、○筋・骨・関節の変化、○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響 【演習】講義で学んだ内容から、介護者としてどういった対応が必要か、ディスカッションし、理解を深める。
(2) 高齢者と健康		3.0	【講義】 (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、循環器障害の危険因子と対策、○老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症）、○誤嚥性肺炎、○病状の小さな変化に気付く視点、○高齢者は感染症にかかりやすい 【演習】講義で学んだ内容から、介護者としてどういった配慮・対応が必要か、ディスカッションし、理解を深める
合計時間数		6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)		7. 認知症の理解 (9時間)	
到達目標		介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。	
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 認知症を取り巻く状況		1.0	【講義】 認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア、○認知症ケアの視点（できることに着目する）
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		2.0	【講義】 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、○健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		2.0	【講義】 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状（BPSD）、○不適切なケア、○生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の世界に合わせる、○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、○身体を通したコミュニケーション、○認知症の進行に合わせたケア 【演習】 ○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを推察する。
(4) 家族への支援		1.0	【講義】 ○認知症の受容課程での援助、○介護負担の軽減（レスパイトケア） 【演習】 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについてグループディスカッションを行う。
(5) 行動障害		3.0	【講義】 ○行動障害とは（行動障害とはどのような状態をいうか） ○自閉症の理解（行動障害を起こしやすい自閉症とはどのような障害か） ○自閉症の障害特性（コミュニケーションや感性の特性、転動性、時間・空間の整理統合、変更への対応や記憶の維持の困難さ） ○行動障害が起きる背景の理解（支援者の不適切な対応が行動障害を誘発していることを知る） ○行動障害を起こさせないようにするための支援とは（行動障害を誘発せず、本人が安心して自信をもって生活できるための支援）
合計時間数		9.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	8. 障害の理解（6時間）		
到達目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)障害の基礎的理解		1.0	【講義】 (1) 障害の概念とICF ○ICFの分類と医学的分類、○ICFの考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		3.0	【講義】 (1) 身体障害 ○視覚障害、○聴覚、平衡障害、○音声・言語・咀嚼障害、○肢体不自由、○内部障害 (2) 知的障害 ○知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ○統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患、○高次脳機能障害、○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心身の機能障害 【演習】 それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を深めるグループディスカッションを行う。
(3)家族の心理、かかわり支援の理解		2.0	【講義】 家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援、○介護負担の軽減 【演習】 事例をもとにグループでどのように対応したらよいかディスカッションする
合計時間数		6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間） ・ 基本的知識の学習（12時間）		
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 介護の基本的な考え方		3.0	【講義】 ○理論に基づく介護（ICFの視点にも続く生活支援、我流介護の排除）、○法的根拠に基づく介護
(2) 介護に関するこころのしくみ基本的理解		4.0	【講義】 ○学習と記憶の基礎知識、○感情と意欲の基礎知識、○自己概念と生きがい、○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、○こころの持ち方が行動に与える影響、○からだの状態がこころに与える影響
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		5.0	【講義】 ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、○中枢神経系と体性神経系に関する基礎知識、○自律神経と内部器官に関する基礎知識、○こころとからだを一体的に捉える、○利用者の様子の普段との違いに気付く視点
合計時間数		12.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	9. ころとからだのしくみと生活支援技術（75時間） ・生活支援技術の講義・演習（4）～（6）（50時間 内17時間）		
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(4) 生活と家事		6.0	【講義】 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ○生活歴、○自立支援、○予防的な対応、○主体的・能動性を引き出す、○多様な生活習慣、○価値観
(5) 快適な居住環境整備と介護		5.0	【演習】 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故、○バリアフリー、○住宅改修、○福祉用具貸与
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立にむけた介護		6.0	【講義・演習】 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、○身じたく、○整容行動、○洗面の意義・効果
合計時間数		17.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	9. ころとからだのしくみと生活支援技術（75時間） ・生活支援技術の講義・演習(7)～(9)（50時間 内18時間）		
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		6.0	【講義・演習】 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、○利用者の自然な動きの活用、○残存能力の活用・自立支援、○重心・重力の働きの理解、○ボディメカニクスの基本原則、○移乗介助の具体的な方法（車いすへの以上の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす、様式トイレ間の移乗）、○移動介助（車いす・歩行器・つえ等）、○褥瘡予防
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		6.0	【講義・演習】 食事に係る基礎知識、食事環境の整備・食事に係る用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ○食事をする意味、○食事のケアに対する介護者の意識、○低栄養の弊害、○脱水の弊害、○食事と姿勢、○咀嚼・嚥下のメカニズム、○空腹感、○満腹感、○好み、○食事の環境整備（時間・場所等）、○食事に関する福祉用具の活用と介助方法、○口腔ケアの定義、○誤嚥性肺炎の予防
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		6.0	【講義・演習】 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法 ○羞恥心や遠慮への配慮、○体調の確認、○全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、○陰部清浄（臥床状態での方法）、○足浴・手浴・洗髪
合計時間数		18.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	9. ころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間) ・生活支援技術の講義・演習(10)～(12) (50時間 内15時間)		
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(10)排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		6.0	【講義・演習】 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法 ○排泄とは、○身体面（生理面）での意味、○心理面での意味、○社会的な意味、○プライド・羞恥心、○プライバシーの確保、○おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害、○排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、○排泄ケアを受けとることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、○便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）
(11)睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		3.0	【講義】 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法 ○安眠のための介護の工夫、○環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室、）○安楽な姿勢・褥瘡予防 【演習】 事例（部屋の環境が原因で安眠出来ない等）をもとにグループで対処法を考え発表する
(12)死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護		6.0	【講義】 終末期に関する基礎知識ところとからだのしくみ、生から死への課程、「死」に向き合うころの理解、苦痛の少ない死への支援 ○終末期ケアとは、○高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、○臨終が近づいたときの兆候と介護、○介護従事者の基本的態度、○他職種間の情報共有の必要性 【演習】事例やワークを使い、自分の終末期を考えてもらい、ディスカッションによりその想いを共有する。その上で、改めて「利用者の尊厳保持」という介護の基本的な考え方の理解を深める。
合計時間数		15.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間） ・生活支援技術演習（13時間）		
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(13) 介護課程の基礎的理解		7.0	【講義】 ○介護課程の目的・意義・展開、○介護課程とチームアプローチ
(14) 総合生活支援技術演習		6.0	【演習】 （事例による展開） 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ○事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1 事例 1.5時間程度で上のサイクルを実施する） ○事例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施
合計時間数		13.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	10. 振り返り（4時間）		
到達目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 振り返り		2.0	【講義・演習】 ○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと、○根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修		2.0	【講義】 ○継続的に学ぶべきこと、○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介 【演習】介護職として働くにあたり、不安に感じている点を最終確認し、フォローを入れる。
合計時間数		4.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例 3)

講 師 一 覧

科目 (項目)		講師氏名	要件番号	専任 兼任 の別
1 職務の理解	(1) 多様なサービスの理解	加藤 伸二	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
1 職務の理解	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	加藤 伸二	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
2 介護における尊厳の保持・自立支援	(1) 人権と尊厳を支える介護	小笠原 藍	①	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
2 介護における尊厳の保持・自立支援	(2) 自立に向けた介護	佐々木 真代	①	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
3 介護の基本	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	鈴木 達也	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
3 介護の基本	(2) 介護職の職業倫理	鈴木 達也	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
3 介護の基本	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	鈴木 達也	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
3 介護の基本	(4) 介護職の安全	鈴木 達也	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	(1) 介護保険制度	山崎 寿子	①	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	(2) 医療との連携とリハビリテーション	館下 真喜子	①	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	(3) 障害者自立支援制度およびその他制度	畠山 兼	③	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		

- 注) 1 「担当科目 (項目)」は、別紙1に定めるカリキュラムの内容毎に記載すること。
- 2 「要件番号」欄は、その科目 (項目) を教授する者として、別紙4のいずれの要件に該当する者であるか、別紙4の各要件に付した番号 (①～⑩) を記載すること。なお、当該要件については、「講師履歴」(様式例4) に明記してあること。
- 3 専任・兼任の区分は、申請者の機関の専任講師である場合のみ専任とすること。
- 4 実習を行う場合は、実習指導者について記載すること。

(様式例3)

講 師 一 覧

科目 (項目)		講師氏名	要件番号	専任 兼任 の別
5	介護におけるコミュニケーション技術	久坂 義臣	①	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
5	介護におけるコミュニケーション技術	久坂 義臣	①	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
6	老化の理解	芳賀 奈緒子	⑤	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
6	老化の理解	芳賀 奈緒子	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
7	認知症の理解	菊池 勝	⑤	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
7	認知症の理解	菊池 勝	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
7	認知症の理解	菊池 勝	⑤	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
7	認知症の理解	菊池 勝	⑤	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
7	認知症の理解	久坂 義臣	①	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
8	障害の理解	宇都宮 崇	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
8	障害の理解	宇都宮 崇	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		

- 注) 1 「担当科目 (項目)」は、別紙1に定めるカリキュラムの内容毎に記載すること。
 2 「要件番号」欄は、その科目 (項目) を教授する者として、別紙4のいずれの要件に該当する者であるか、別紙4の各要件に付した番号 (①～⑩) を記載すること。なお、当該要件については、「講師履歴」(様式例4) に明記してあること。
 3 専任・兼任の区分は、申請者の機関の専任講師である場合のみ専任とすること。
 4 実習を行う場合は、実習指導者について記載すること。

(様式例3)

講 師 一 覧

科目		(項目)	講師氏名	要件番号	専任 兼任 の別	
8	障害の理解	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	川上 美香	⑦	相談業務に従事した経験がある臨床心理士又は精神保健福祉士	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(1) 介護の基本的な考え方	有原 領一	②	当該科目に関連する実務経験が概ね3年以上の社会福祉士	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	有原 領一	②	当該科目に関連する実務経験が概ね3年以上の社会福祉士	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	佐々木 修	①	当該科目に関連する実務経験が概ね3年以上の介護福祉士	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(4) 生活と家事	千坂 貴子	①	当該科目に関連する実務経験が概ね3年以上の介護福祉士	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(5) 快適な居住環境整備と介護	星 政宏	⑥	当該科目に関連する実務経験が概ね3年以上の作業療法士、医師、福祉住環境コーディネーター（2級以上の者）、福祉用具専門相談員（「(5) 快適な居住環境整備と介護」のみ）、1級建築士（「(5) 快適な居住環境整備と介護」の中の住宅に関する知識のみ）	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	長沢 沙也香	⑤	当該科目に関連する実務経験が概ね3年以上の保健師又は看護師	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	田中 翔樹	⑦	当該科目に関連する実務経験が概ね3年以上の理学療法士（「(5) 快適な居住環境整備と介護」、「(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」のみ）	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	長門 千春	⑧	当該科目に関連する実務経験が概ね3年以上の栄養士（「(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」の中の食事及び栄養に関する分野のみ）	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	木村 省子	⑤	当該科目に関連する実務経験が概ね3年以上の保健師又は看護師	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	菊池 ひとみ	⑤	当該科目に関連する実務経験が概ね3年以上の保健師又は看護師	兼任
			(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)			

- 注) 1 「担当科目(項目)」は、別紙1に定めるカリキュラムの内容毎に記載すること。
 2 「要件番号」欄は、その科目(項目)を教授する者として、別紙4のいずれの要件に該当する者であるか、別紙4の各要件に付した番号(①～⑩)を記載すること。なお、当該要件については、「講師履歴」(様式例4)に明記してあること。
 3 専任・兼任の区分は、申請者の機関の専任講師である場合のみ専任とすること。
 4 実習を行う場合は、実習指導者について記載すること。

(様式例 3)

講 師 一 覧

科目 (項目)		講師氏名	要件番号	専任 兼任 の別
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	宮澤 仁美	⑤	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	ガルシア 小織	⑤	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	宇都宮 崇	⑤	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	鈴木 達也	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	千坂 貴子	①	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
10	振り返り	加藤 伸二	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		
10	振り返り	加藤 伸二	②	兼任
		(講師履歴は、平成25年6月20日付け長第277号により受理通知を受けた研修計画に添付済)		

- 注) 1 「担当科目 (項目)」は、別紙1に定めるカリキュラムの内容毎に記載すること。
- 2 「要件番号」欄は、その科目 (項目) を教授する者として、別紙4のいずれの要件に該当する者であるか、別紙4の各要件に付した番号 (①～⑩) を記載すること。なお、当該要件については、「講師履歴」(様式例4) に明記してあること。
- 3 専任・兼任の区分は、申請者の機関の専任講師である場合のみ専任とすること。
- 4 実習を行う場合は、実習指導者について記載すること。

修了評価の方法

○筆記試験	
評価方法	【出題範囲】 「2 介護における尊厳の保持・自立支援」から「9 こころとからだのしくみと生活支援技術」とし、テキスト1巻47ページから3巻463ページまでとする。 【出題形式】 五肢択一形式 【出題数（配点）及び試験時間】 「2 介護における尊厳の保持・自立支援」… 3問中 1問2点・2問2点（計8点） 「3 介護の基本」… 4問 各3点（計12点） 「4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携」… 4問 各3点（計12点） 「5 介護におけるコミュニケーション技術」… 2問 各3点（計6点） 「6 老化の理解」… 3問 各3点（計9点） 「7 認知症の理解」… 4問中 1問2点・3問3点（計11点） 「8 障害の理解」… 2問 各3点（計6点） 「9 こころとからだのしくみと生活支援技術」… 12問 各3点（計36点） 合計34問（100点）、60分
○演習	
評価方法	下記の演習をチェックリストにより講師が評価する。 「9 こころとからだのしくみと生活支援技術」の科目中 （6）整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 （7）移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 （8）食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 （9）入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 （10）排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 その他演習 評価7割に達したものを講師が演習の場で確認する。
○実習	
評価方法	実施なし
◎最終評価	
評価方法	以下のすべてを満たした場合、認定基準に達したものとする。 ○筆記試験：70点以上 ○演習：全項目のうちB判定以上が7割以上確認できたもの。 A＝出来ている B＝概ね出来ている C＝出来ていない
基準に満たない場合の取扱い	
【結果の通知方法】 筆記試験終了後翌日に、受講者に対し個別に通知する。 【再試験の実施方法及び評価方法】 ○筆記試験については、基準に達しなかった場合、翌日に再試験日を通知し再度筆記試験を行う。 ○演習については、基準に達しない項目については担当講師にB判定以上を認められるまで繰り返し演習を行う。	

※筆記試験の評価方法は、出題範囲、出題形式、出題数（配点）及び試験時間を記載すること。

※演習及び実習（実施する場合）の評価方法は、各事業者において適宜定める方法を記載すること。

※最終評価は、総合評価（認定基準：7割以上）の判定基準を記載すること。

※基準に満たない場合の取扱いは、結果の通知方法、再試験の実施方法及び評価方法について詳細を記載すること。